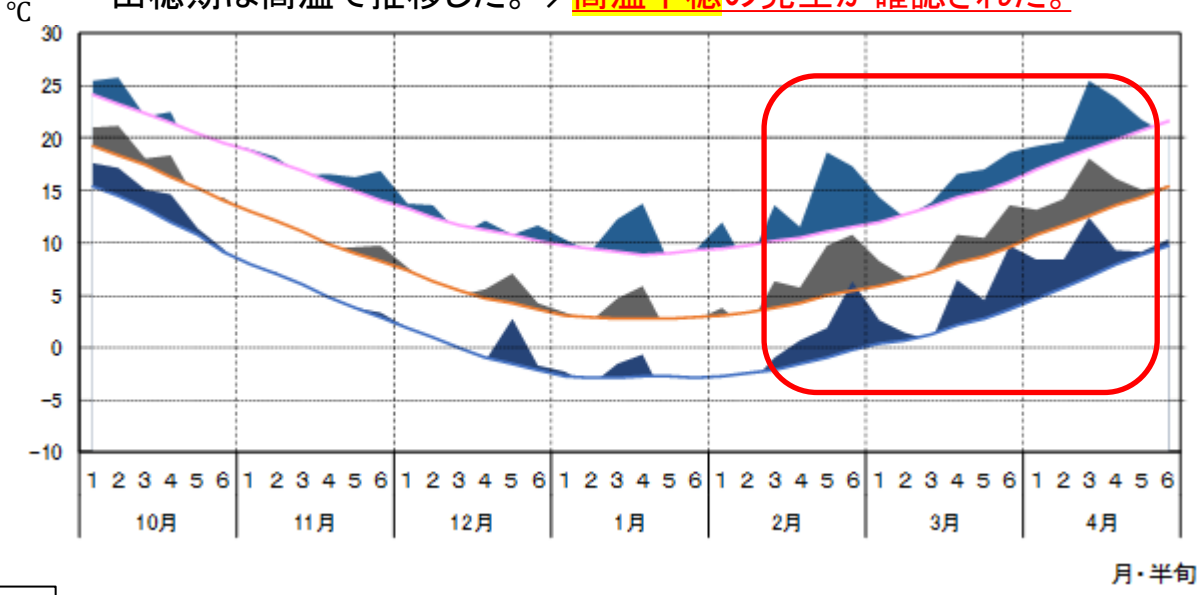
麦類栽培技術資料

令和8年10月　下都賀農業振興事務所

1　令和8年産の振り返りと次年産の栽培ポイント

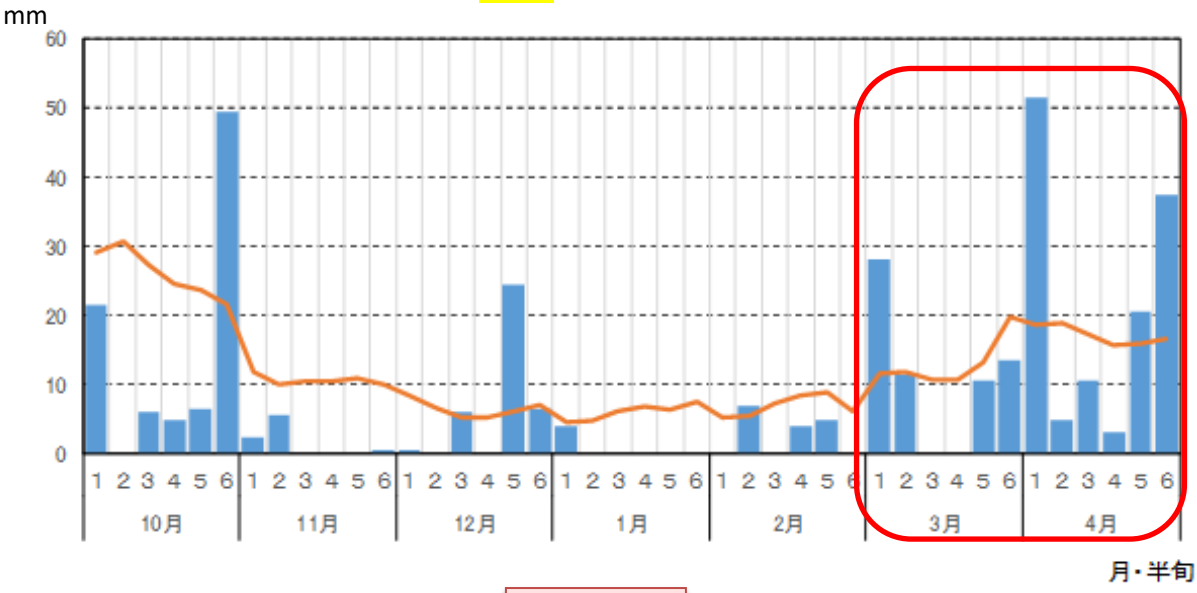
気温

・播種期は平年並で推移し、２月中旬以降平年よりも高い気温が続いた。
・出穂期は高温で推移した。→ 高温不稔の発生が確認された。



降水

・播種期は乾燥状態となり、３月以降は頻繁に降雨がある状態であった。
→ 肥料の持ち越しによる倒伏の発生が確認された。



重要

- 湿害対策
- 土づくり、施肥
- 適期、適正播種
- 雑草防除
- 麦踏み

２　湿害対策

・湿害は根の活性を低下させるだけではなく、出芽や生育を抑制し、生育ムラや収量低下、細麦（充実不足）の要因となる。

＜排水対策の徹底＞
①明きょの設置：深さは最低20cm、できれば30cm（耕深より深く）
②弾丸暗きょやスタブルカルチ等による心土破砕



明きょを排水路に繋ぎ確実な排水対策を！

３　土づくりと適正施肥

・土壌はpH6.5を目標に矯正する。
・専用施肥を使用する。⇒登熟後期の溶出により粒の充実につながる。
　・ニューサチホゴールデン：N6.5～8kg/10a（水稲跡）
　・シュンライ：N6～7kg/10a（水稲跡）
　・イワイノダイチ、さとのそら：10～11kg/10a（水稲跡）
　・タマイズミ：10.8kg/10a（タマイズミ専用866を60kg/10aを標準とする。）
　・ゆめかおり：12.0kg/10a（開花期頃にN2～4kg/10a追肥する。）

４　適期、適正播種

・播種基準日（県南部）：「11月10日～25日」
※播種適期を基本として、気象庁の季節予報を参考に播種時期を判断しましょう。
・播種深度：3cm程度
　・ニューサチホゴールデン：播種量8.5kg/10a
　・シュンライ：播種量7kg/10a
　・イワイノダイチ、さとのそら、タマイズミ、ゆめかおり：播種量7～8kg/10a
※種子消毒は必ず行うこと。（大麦斑葉病、なまぐさ黒穂病対策）

５　雑草防除

・播種後に全面土壌処理（リベレーターフロアブル等）を行い、その後雑草の発生状況に応じて生育期処理（ハーモニーDF、エコパートフロアブル等）を行う。
・カラスムギ対策は、麦収穫後代かきを行い、７～８月に1ヶ月間常時湛水を保つと効果的である。

６　麦踏み

・麦3葉目展開（2.5葉期）後から、茎立期直前（幼穂長2cm）まで
・年内に1～2回、年明けから茎立期直前までに2回以上（合計最低3回以上）
・2週間以上あける　※土壌水分が高いときは生育不良を招くので行わない。